



風景印 (上)

全国に約1万1200)

小さい頃から、郵便ポストや郵便局はなじみのある言葉だが、「風景印」というのは大人になって知った言葉だ。

東京に住む娘から都内の郵便局の風景印を押し、始めて風景印の存在を知った。

風景印は全国に約2万の郵便局のうち、約1万1200局に配備されている。下松東柳郵便局に配備されている「くだまる」。昨年の11月5日に取り扱いははじめ、当日には全国から約800通の押印希望者が届いたというから、風景印マニ

急に私の中で親しみが沸いてきた。こんなところにも風景印は生きているのだ。

下松市の笠戸島郵便局の風景印は、全長476

戸大橋、政治家でスキーの普及に尽力した長岡外史の風景印などがある。

こうしてみると、風景印はそれぞれの地域の観光PRにも多いに貢献していることがわかる。風景印からみる郷土も観光PRだけでなく、私たちが見逃している郷土の良さ、豊かさなどを認識することができた。視点をかえて物事を見るおもしろさもある。

内包(ないほう)しているのだと思った。なお、次回からは下松周辺の市や町の風景印を通して、周南地域を見つめ直したいと思う。

◇ ページに掲載する。



阿米(およね)像



笠戸大橋の風景印



「くだまる」の風景印



日本の航空とスキーの先駆者

大城の長岡外史とスキーをする娘